

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立大志小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・最終評価では中間評価から向上した項目が4項目あった。中間評価を基として具体的取組のPDCAサイクルを回し、改善を重ねてきた成果と考える。来年度も児童生徒と修正せしめながら教育活動の充実に努めていきたい。</p> <p>・項目①「学力向上」に関しては来年度も算数科の校内研修に取り組み、「スキルタイム」の継続による基礎基本の定着と記述力の向上を目指して授業改善を推進していく。項目④「人権学習への実践、思いやりのある言葉遣い」、項目⑤「いじめへの対応」については、日常の取組(児童の名前のさんづけ、乱暴な言葉遣いへのその都度の指導等)の学級通信でのPRやいじめと想われる事案等への対応報告をより細やかにするなどを継続していく必要がある。</p> <p>・各学年の授業や「働く人プロジェクト」、福祉体験、教育講演会、教育相談・特別支援教育等地域人材やSC及びSSW等専門人材を活用した教育活動を多く設定することで、児童の学びを深め、支援の改善を図ることができた。来年度も外部人材の力もお借りしながら、児童が意欲的に取り組むことのできる教育活動の充実及び児童理解に努めていきたい。</p>
2 学校教育目標	<p>全員力で伸びる学校</p> <p>「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成」</p> <p>『た』くましい体 『い』たわりの心 『し』っかり勉強</p>
3 本年度の重点目標	<p>①学力向上 効果的で必然性のある話し合い活動と個々の考えが大切にされる環境づくり</p> <p>②充実した生活 自己肯定感を育む教育活動と体力向上・運動習慣作りの推進</p> <p>③地域連携 地域の「ひと・こと・もの」を活かした学びを通して地域の良さを実感し、守り、発展させる取り組みとキャリア教育の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	○児童が主体的に学び、互いの考えを大切にできる授業づくり	○「授業中、自分の考えを伝えることができた」に肯定的回答をする児童80%以上	・算数科の校内研究に取り組み、理論研修及び教材研究、全体授業研、授業研究会を通して授業改善、話し合い活動の充実を図る。					学力向上CO まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他を尊重することに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をする児童80%以上。	・児童会の取組を核とした人権週間や道徳教育実践及び振り返りの実施。 ・道徳教育の授業づくりに関する校内研修等の実施(夏季休業中)。 ・自己肯定感を高める命の授業等の実施。					道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員が80%以上。	・「こころのアンケート」及び「Q-U」アンケートへの取組 ・いじめ対応及び「Q-U」アンケートの結果分析の研修の実施。					こころ部
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・学級活動等で自他のよいところを認める活動の定期的な設定。 ・キャリア教育につながる体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの自己評価をさせる。					こころ部
	②「望ましい生活習慣の形成」	②睡眠時間8時間以上・朝食喫食率80%以上の児童回答を目指す。	・メディアに触れる時間のアンケートを取り、その結果を保護者に発信し、時間を減らす意識を高める。 ・起床・就寝時間や朝食喫食状況を記録し、生活習慣を分析できる生活リズムチェックの取組を実施する。					教頭、各部主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力向上・運動習慣作り	○全校的にスポーツに親しむ活動を設定することで、授業時間のみならず自主的な運動に取り組む雰囲気をつくる。	・マラソン週間や縄跳び大会、スポーツチャレンジを設定し、委員会発表や校内表彰をすることで活動意欲を高める。					教頭
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日を定時退勤日として設定し、メリハリのある業務を推進する。 ・業務記録票をもとに振り返る場を設定し、勤務の在り方の改善を行う。					教頭、各部主任
●特別支援教育の充実	○校務の整理や行事の精選に取り組み、業務の効率化を推進する。	○各学年で作成したワークシートなどの共有化を行う。 ○「業務の効率化が図られた」と回答する職員80%以上。	・各部長のリーダーシップのもと、各部提案文書の共有化を引き続き推進する。 ・若手育成の観点から、学年通信を掲示したり、各学年で作成したワークシート等を校務用に保存したりして、教育的財産を共有する。					教頭
	○研修会やグループ授業研を効果的に活用した、個に応じた指導・支援の手立ての充実	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答する教員が80%以上。	・特別支援教育に関する職員研修会を実施する。 ・個別の支援に係るケース会議の開催、エリアリーダーの活用、連携機関による効果的支援の共有を図る。					特別支援教育CO
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
○ふるさとの自然環境・伝統文化への体験活動の充実	○地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験活動の充実	○「唐津のよいところを話すことができる」に肯定的回答をする児童が80%以上	・地域人材を活用し、地域の自然環境の豊かさや伝統文化の良さをに実感する体験活動を各学年で年間3回以上実施する。					
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望								